

2017 年度 環境活動レポート

(対象期間： 2017年4月～2018年3月)



作成日： 2017年7月11日
更新日： 2018年6月22日

ほくたんハイトラスト株式会社

目 次

1	環境経営方針	・・・	P1
2	会社の概要	・・・	P2
3	認証・登録の対象組織・活動	・・・	P2
4	事業概要	・・・	P3
5	施設概要	・・・	P3
6	実施体制図	・・・	P6
7	役割・責任・権限表	・・・	P6
8	受託した一般廃棄物の処理実績	・・・	P7
9	環境目標と活動実績	・・・	P8
10	環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容	・・・	P10
11	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	・・・	P11
12	緊急事態対応訓練	・・・	P11
13	代表者による全体の評価と見直し	・・・	P12
14	環境活動の紹介	・・・	P13

環境経営方針

<環境経営理念>

【基本理念】

ほくたんハイトラスト株式会社は、豊岡市、香美町、新温泉町の3市町から構成される北但行政事務組合が、「PFI」法に準じ、DBO（Design：設計，Build：建設，Operate：運営）方式により実施した「北但ごみ処理施設整備・運営事業」の運営事業会社として、平成25年9月4日、株式会社タクマ、株式会社タクマテクノスの出資により設立された特別目的会社（SPC）です。

この事業の遂行にあたっては、株式会社タクマの社是「人を大切に、地球を大切に、技術を大切に」および、本事業の基本方針である「環境保全・公害防止対策に万全な施設」「确实・安全・安定的に処理できる施設」「廃棄物の資源化を図り、循環型社会の形成に資する施設」「周辺環境と調和した施設」「住民から信頼される施設」「経済性に優れた施設」に従った事業活動の展開に努めます。

<環境保全への行動指針>

1. 当社の経営理念に基づき、運営維持管理業務の遂行にあたっては、下記に示す活動項目と目標を設定し、その達成に努めます。
 - I 二酸化炭素排出量の削減及びエネルギー回収効率の向上の推進
 - II 廃棄物排出量の削減及びリサイクル率の向上
 - III 水使用量の削減
 - IV 化学物質の使用量削減および適正管理
 - V グリーン購入の推進
 - VI 環境に配慮した地域貢献活動の推進
2. 適用される環境関連法規および豊岡市・香美町・新温泉町など行政からの環境に関わる指示事項を遵守します。
3. 環境方針は全従業員に周知徹底し、一般にも公開します。

制定日： 2017年4月1日

代表取締役社長

田中 大介

② 会社の概要



- 1 名称及び代表者名
ほくたんハイテック株式会社
代表取締役社長 田中 大介
- 2 所在地
〒669-6331
兵庫県豊岡市竹野町坊岡943
クリーンパーク北但内
- 3 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 : 益田 美成 TEL : 0796-21-9111
コミュニケーション窓口 : 相浦 秀雄 FAX : 0796-21-9112
メールアドレス : info@hokutan-ht.com
- 4 事業内容
一般廃棄物処理施設の運営・維持管理業務
(豊岡市、香美町、新温泉町との廃棄物処理施設運營業務委託契約につき廃棄物処理業
許可不要(委託期間:2016年8月~2036年7月))
- 5 事業の規模
法人設立 2016年8月1日
資本金 30,000 万円
売上高 売上高区分A:5億円未満
従業員 57 名
延床面積 15,902 m²
敷地面積 約36.6 ha
山林面積 約2.6 ha
- 6 株主
株式会社 タクマ 株式会社 タクマテクノス
- 7 事業期間
2016年8月1日から2036年7月31日(20年間)

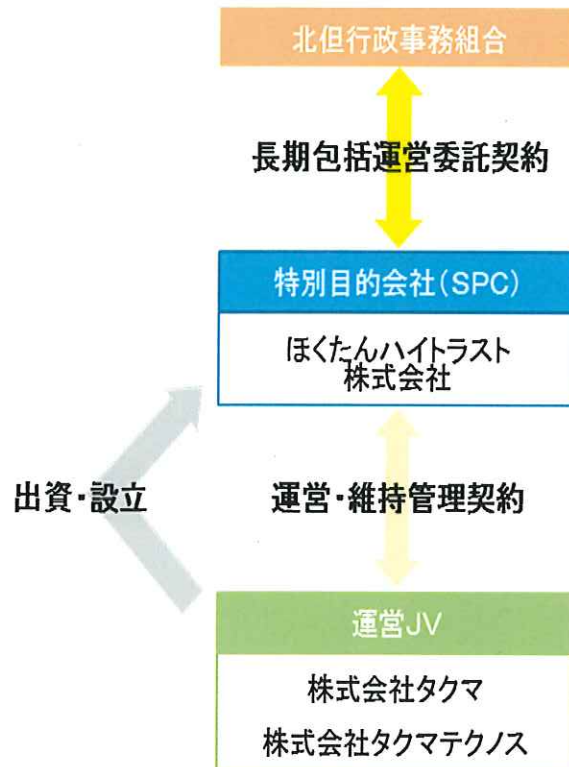
③ 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : ほくたんハイテック株式会社
対象事業所 : クリーンパーク北但内事業所
活動 : 一般廃棄物処理施設の運営・維持管理業務

④ 事業概要

北但行政事務組合が発注する「北但ごみ処理施設整備・運営事業」をタクマグループ（株式会社タクマ、株式会社タクマテクノス）が受託したことに伴い、施設の運営維持管理業務等を実施する特別目的会社（SPC）として、弊社ほくたんハイトラスト株式会社は設立されました。

本事業は、一般廃棄物処理施設であるクリーンパーク北但の運転、ユーティリティの確保、日常点検、定期点検、部品等の調査、補修等の運営維持管理を、2016年8月1日から2036年7月31日までの20年間にわたり実施するものです。



特別目的会社（SPC:Special Purpose Company）とは

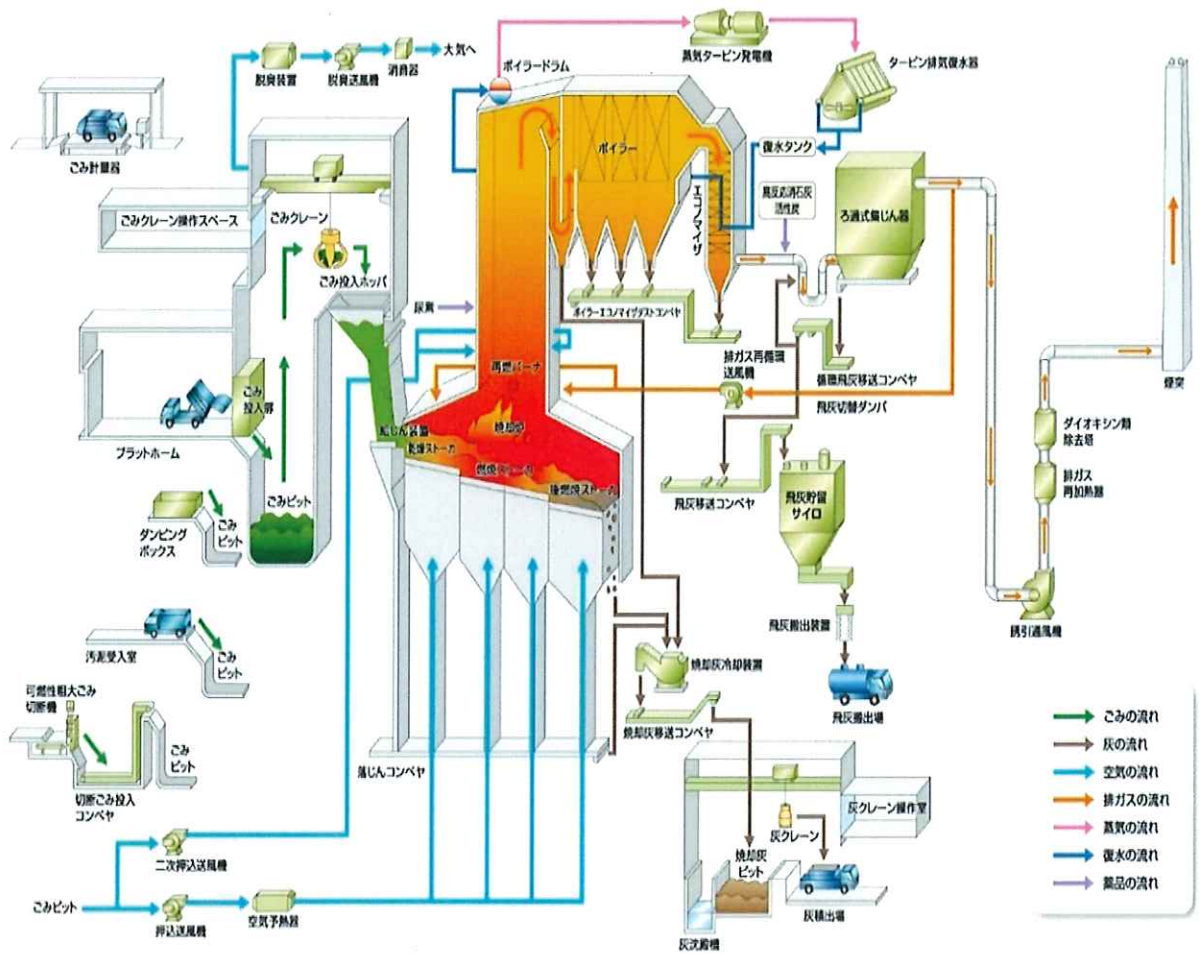
事業の独立性の確保を目的に特別目的会社（SPC）を設立することで、出資者等の破綻等が生じた場合でも事業の実施に影響を受けない体制を構築することが可能です。

本事業でほくたんハイトラスト(株)が特別目的会社（SPC）となり、20年間の運営維持管理を行います。

⑤ 施設概要

施設名称	: クリーンパーク北但
処理対象物	: 一般廃棄物
焼却炉形式	: 全連続燃焼式焼却炉（ストーカ炉）
施設規模	: クリーンセンター71 t /日・炉×2炉（24時間運転） リサイクルセンター19 t /日（5時間運転）
余熱利用設備	: 蒸気タービン発電機（発電機：2850kW）

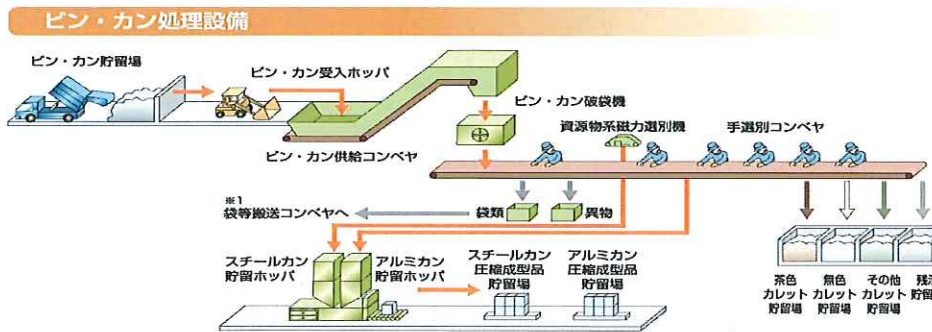
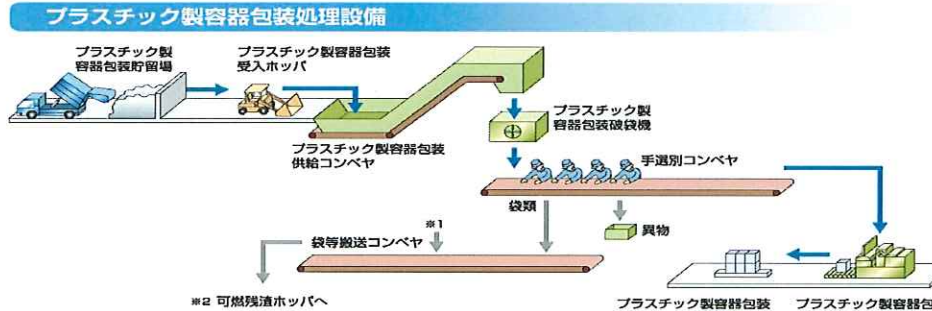
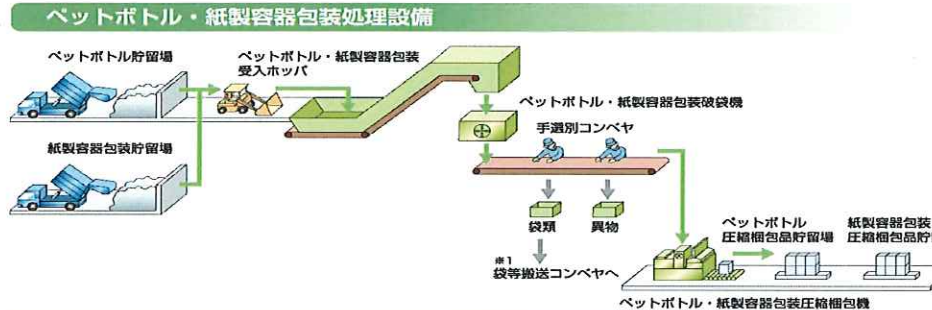
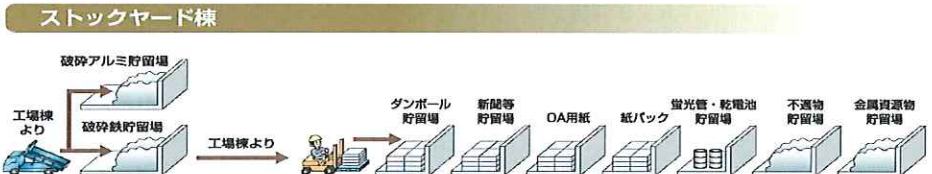
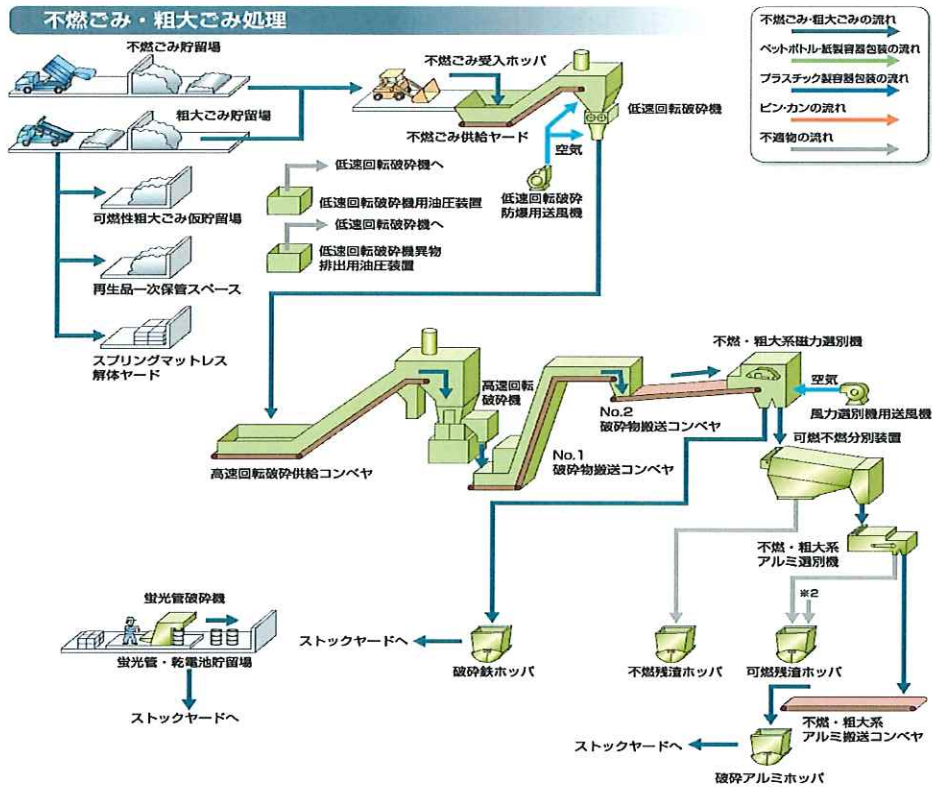
○クリーンセンター処理フロー



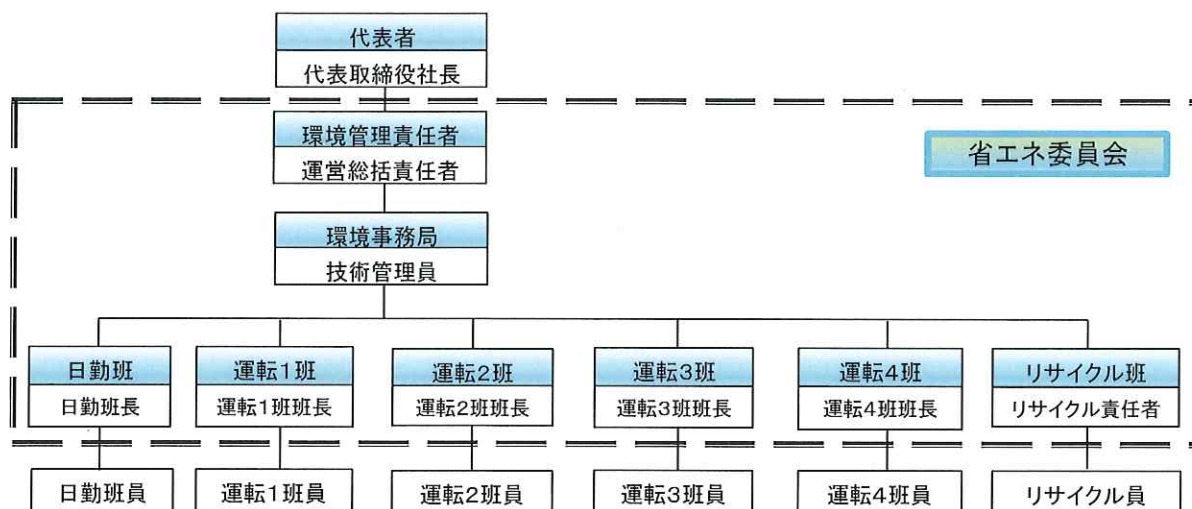
○排ガス規制値

項目	要求水準値	自主保証値
ばいじん	0.01g/m ³ N	0.005g/m ³ N
塩化水素	50ppm	40ppm
窒素酸化物	50ppm	45ppm
硫黄酸化物	30ppm	28ppm
一酸化炭素(4h平均)	30ppm	25ppm
ダイオキシン類	0.05ng-TEQ/m ³ N	0.03ng-TEQ/m ³ N
水銀	—	0.05mg/m ³ N

○リサイクルセンター処理フロー



⑥ 実施体制図



⑦ 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者 (運営統括責任者)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境目標・環境活動計画書の提案 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの確認
環境事務局 (技術管理員)	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、各班の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（ホームページ公開と地域事務局への送付）
省エネ委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動計画の審議 環境活動実績の確認・評価 各班における環境方針の周知 各班の班員に対する教育訓練の実施 各班に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 各班に必要な手順書の作成及び手順書による実施 各班の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 各班の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

⑧ 受託した一般廃棄物の処理実績(2017年4月～2018年3月)

処理方法等	一般廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)	
中間処理(B)	一般廃棄物	焼却	37,229	
不燃、粗大、資源ごみ等	燃やさないごみ	再資源化	1155.9	
	粗大ごみ	再資源化	879.1	
	ビン・カン	再資源化	747.1	
	ペットボトル	再資源化	125.4	
	紙製容器包装	再資源化	153.6	
	プラ容器包装	再資源化	493.8	
	蛍光管	再資源化	3.2	
	乾電池類	再資源化	6.5	
	不燃、粗大、資源ごみ等小計		3564.6	
中間処理合計			40793.6	
中間処理後の最終処分及び資源化物	最終処分	焼却灰	埋立処分	3595.6
		不燃残渣	埋立処分	637.2
		カレット残渣	埋立処分	155.0
	最終処分量小計			4387.8
	再資源化	飛灰	セメントリサイクル	469.1
		破碎鉄	再資源化	440.3
		破碎アルミ	再資源化	58.7
		茶カレット	再資源化	152.4
		無色カレット	再資源化	169.4
		その他カレット	再資源化	109.9
		スチール缶圧縮成形品	再資源化	87.9
		アルミ缶圧縮成形品	再資源化	80.1
		ペットボトル圧縮梱包品	再資源化	105.8
		紙製容器包装圧縮梱包品	再資源化	136.5
		プラ製容器包装圧縮包装品	再資源化	372.0
		新聞・雑誌等	再資源化	25.4
		段ボール	再資源化	22.4
		蛍光管	再資源化	26.0
		乾電池類	再資源化	40.6
		その他排出物	再資源化	0.0
雑金属類		再資源化	59.1	
再資源化量小計			2355.6	
中間処理後処分量合計			6743.3	

※処理量については、有効数字以下の丸め誤差が含まれています。

⑨ 環境目標と活動実績

9.1 中期環境目標

項目	単位	基準年度実績		年度目標		
		2016年	2017年	2018年	2019年	
I	二酸化炭素総排出量の削減	k g-CO2	578,316	575,425	574,268	572,533
	購入電力量の削減 (CO2排出係数 0.509) ※1	kWh	129,000	128,355	128,097	127,710
		k g-CO2	65,661	65,333	65,201	65,004
	灯油使用量の削減	ℓ	192,395	191,433	191,049	190,471
		k g-CO2	479,436	477,038	476,080	474,641
	ガソリン使用量の削減	ℓ	907	903	901	898
		k g-CO2	2,106	2,096	2,092	2,085
	軽油使用量の削減	ℓ	11,856	11,796	11,773	11,737
		k g-CO2	31,113	30,958	30,896	30,802
	売電電力量の管理・向上	kWh	11,209,833	11,265,882	11,299,511	11,321,931
ごみ発電量の向上	kWh	16,711,214	16,794,770	16,844,904	16,878,326	
消費電力量の削減	kWh	5,427,636	5,400,497	5,389,642	5,373,359	
太陽光発電性能の維持	kWh	7,225	7,225	7,225	7,225	
II	事業所廃棄物量の削減	k g	759	751	749	747
III	上水使用量の削減	m ³	2,528	2,515	2,510	2,502
IV	消石灰使用量の削減	k g	171,613	170,755	170,412	169,897
	尿素使用量の削減	ℓ	11,088	11,032	11,010	10,977
V	グリーン購入の推進	品	10	12	13	13
VI	受入ごみのリサイクル率向上	%	32.4%	33.0%	33.5%	34.0%
	環境貢献活動	回	12	12	12	12

※二酸化炭素排出係数0.509 k g-CO2/kWh (関西電力実排出係数 2015年)

※本事業は2016年8月より開始した為、基準年度実績に含まれる4月から7月の実績は概算値を入力

※購入電力量は、消費電力量の内数となり、ごみ発電を停止する整備期間(年間10日程度)のみ発生

9.2 2017年4月から2018年3月度 環境目標及びその実績

項目	単位	目標値	実績	評価	達成率 (%)	
I	二酸化炭素総排出量の削減	k g-CO2	575,425	196,841	○	66%
	購入電力量の削減 (CO2排出係数 0.509) ※1	kWh	128,355	88,798	○	31%
		k g-CO2	65,333	45,198		
	灯油使用量の削減	ℓ	191,433	46,098	○	76%
		k g-CO2	477,038	114,873		
	ガソリン使用量の削減	ℓ	903	1,105	×	-22.5%
		k g-CO2	2,096	2,566		
	軽油使用量の削減	ℓ	11,796	13,033	×	-10%
		k g-CO2	30,958	34,203		
	売電電力量の管理・向上	kWh	11,265,882	11,661,850	○	4%
ごみ発電量の向上	kWh	16,794,770	17,086,960	○	2%	
消費電力量の削減	kWh	5,400,497	5,328,980	○	1%	
太陽光発電性能の維持	kWh	7,225	11,305	○	156%	
II	事業所廃棄物量の削減	k g	751	706	○	7%
III	上水使用量の削減	m ³	2,515	2,129	○	15%
IV	消石灰使用量の削減	k g	170,755	185,263	×	-8%
	尿素使用量の削減	ℓ	11,032	13,501	×	-22%
V	グリーン購入の推進	件	12	27	○	221%
VI	受入ごみのリサイクル率向上	%	33.0%	34.9%	○	106%
	環境貢献活動	回	12	12	○	100%

⑩ 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
二酸化炭素総排出量の削減		
数値目標	○	CO2排出量の抑制として、電力・燃料消費削減の取組みを行った結果、達成となりました。
・購入電力量の削減	◎	
・灯油使用量の削減	◎	
購入電力の削減		
数値目標	○	焼却炉の運転時は、蒸気タービンによる発電で場内使用電力を全て賅っており、電力の購入は年1回の共通休炉の4月に行います。共通休炉時の電力消費量の削減により、達成となりました。
・適正空調温度の注意喚起	◎	
・不要機器・照明の電源オフ徹底	◎	
灯油使用量の削減		
数値目標	○	灯油は主に焼却炉の立上げ・立下げおよび燃焼不調時の助燃用として使用しますが、立ち上げ・立ち下げ時に燃焼管理の改善等を行った結果、大幅な達成となりました。
・立上げ、立下げ手順の効率化	◎	
・定常運転時の助燃抑制	○	
ガソリン使用量の削減		
数値目標	×	社用車に使用するガソリンの使用量削減の取組みを行いました。が、基準年に比べ、社用車を買入物に使う頻度が上がりガソリン使用量が増加し未達成となりました。
急加速・急発進の禁止	△	
軽油使用量の削減		
数値目標	×	軽油の使用量削減の取組みを行いました。が、基準年に比べ、重機を可燃物の運搬、クレーン投入扉ごみ除去、除雪等に使う機会が増えたため使用量が増加し未達成となりました。
急加速・急発進の禁止	○	
売電電力量の管理・向上		
数値目標	○	余剰電力の売電量は、夏季の電力ピーク期に最大化を図る計画としているため、月単位では未達が多くなっています。しかし年間を通じた売電量は達成となりました。
・運転計画の策定および見直し	○	
・焼却炉の安定稼働	◎	
ごみ発電量の向上		
数値目標	○	発電量は、夏季の電力ピーク期に最大化を図る計画としているため、月単位では未達が多くなっています。しかし年間を通じた発電量では達成となりました。
・運転計画の策定及び見直し	○	
・焼却炉の安定稼働	◎	
消費電力量の削減		
数値目標	○	消費電力は、月単位では未達成もありましたが通年では建築設備系をタイマ運転で削減した事により、達成となりました。
・不要機器・照明の電源オフ徹底	◎	
太陽光発電量の維持		
数値目標	○	1～3月は積雪量が多く、太陽電池パネルを塞ぐことになり発電量が低下しました。通年では、春夏秋に発電量を稼いだことで達成しています。
・太陽光パネルの適宜清掃	○	
廃棄物排出量の削減		
数値目標	○	事務所からの廃棄物排出量の管理に取り組んだ結果、達成となりました。
・詰め替え容器の使用推進表示	◎	
上水使用量の削減		
数値目標	○	1月に即湯ユニット配管凍結による破損で上水が大量に漏れましたが、日々の節水活動により年計画は達成しました。
・節水の注意喚起	○	
消石灰の使用量削減		
数値目標	×	有害ガス除去のために使用します。使用量の削減には努めたものの、達成できませんでした。
・排ガスの適正管理	◎	
・過剰吹込みの抑制	○	
尿素の使用量削減		
数値目標	×	4～9月は未達、10～3月は11月を除いて達成しています。ごみ質により使用量が多くなり、削減に努めたものの未達成となりました。
・排ガスの適正管理	◎	
・過剰吹込みの抑制	○	
グリーン購入の推進		
数値目標	○	事務用品の購入にあたりグリーン購入の励行を図った結果、達成となりました。
・事務用品グリーン購入比率向上	◎	
受入ごみのリサイクル率の向上		
数値目標	○	受入ごみのリサイクル率は、適正分別の励行による残渣の削減に努めたことから、達成となりました。
・残渣の削減	◎	
環境貢献活動		
数値目標	○	周辺道路等の不法投棄パトロールを行い、施設周辺の環境を損なわないよう取り組んでおり、その実施目標について今期は達成となりました。
・進入道路周辺清掃及び、不法投棄パトロール	◎	

⑪ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則	設備全般	遵守
大気汚染防止法施行規	排出ガス	遵守
水質汚濁防止法	調整池	遵守
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則	排出ガス	遵守
廃棄物焼却炉に係るばいじん等に含まれるダイオキシン類の量の基準及び測定の方法に関する省令	焼却灰飛灰処理物	遵守
騒音規制法	金属圧縮機×1、空気圧縮機（7.5kw以上）×3、送風機（7.5kw以上）×18	遵守
振動規制法	金属圧縮機、空気圧縮機（7.5kw以上）×3	遵守
悪臭防止法施行規則	悪臭	遵守
消防法	蓄電設備、非常用発電設備、消火設備	遵守
労働安全衛生法	ごみクレーン、灰クレーン、タービン発電機用ホイスト、フォークリフト、ホイールローダー	遵守
作業環境測定法	粉じん	遵守
電気事業法	自家用電気工作物 ボイラ設備 蒸気タービン発電設備 受変電設備	遵守
水道法	生活用受水槽	遵守
建築基準法	エレベータ設備（3機）	遵守
計量法	搬出入ごみ計量器	遵守
フロン排出抑制法	業務用エアコンの定期自主点検及び法定点検の実施	遵守
PRTR法	PRTR法に基づく届出（灯油（キシレン、1,2,4トリメチルベンゼン）・ダイオキシン類）	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価は、1回/月「環境保全状況報告書」を作成し、確認しています。その結果、環境関連法規等は遵守されていました。なお、違反、訴訟等も過去2年間ありませんでした。

⑫ 緊急事態対応訓練

緊急事態の想定：火災		
■実施日：2017/8/4	■実施場所：クリーンパーク北但内事業所	
■参加者：リサイクルセンター手選別班・クリーンセンター直班・日勤班	■実施内容：通報訓練、避難訓練、消火訓練	
■評価： 通報手順、避難手順、消火手順を確認し、スムーズに訓練をすることが出来ました。		
■実施状況の様子		
		
通報訓練	避難訓練	放水訓練

⑬ 代表者による全体の評価と見直し

【前回の指示への取組結果】	
・初年度の為なし	
<p><情報></p> <p>◇自社を取り巻く環境問題の変化 (社会的情勢、利害関係者の要求等) 特になし</p>	<p><見直し・指示></p> <p>◇環境方針 変更の必要なし</p>
<p>◇環境目標・活動計画の達成状況</p> <p>・夏季の発電量増加を達成するため、焼却炉の安定運転に努めます。 ・薬品使用量について、施設運転に係る規制基準の遵守を前提に使用量の削減を図ります。</p>	<p>◇環境目標・活動計画</p> <p>・2017年度は年間を通じた実績データを収集できる最初の年度となることから、正確に実績を把握し、次年度以降の目標設定に活用してください。</p>
<p>◇その他</p> <p>・地域から本事業に対する理解をより得るため、継続して地域貢献活動を行います。</p>	<p>◇その他</p> <p>・地域貢献活動については一部のメンバーに偏らず、職場全体で取り組むことで、目的意識の共有化を図ってください。</p>
【今回の評価結果と今後の経営視点】	
<p>・本年度は、エコアクション21環境マネジメントシステムの運用元年となり、未だ手探りの部分もあると思いますが、職場から目標達成に向けてのアイデアが出るような環境作りと、各活動項目の具体的な取り組みを全員が確認できるよう日常から周知を図ることで、次年度の飛躍を期待します。</p>	

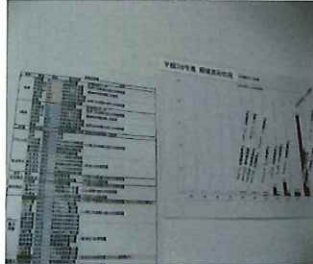
⑭ 環境活動の紹介

「省エネ委員会」



毎月省エネに関して意見交換及び実績、アイデア抽出等の報告・検討会を開催しています。

「省エネ活動の結果の見える化」



電力や、灯油等をグラフ化したものを従業員が通行するところに掲示して「省エネ活動の結果の見える化」を実施しています。

「進入道路の清掃及び、不法投棄パトロール」



施設への進入道路等への不法投棄が無いかパトロールを実施すると共に清掃を行っています。

「従業員家族見学会」



従業員のご家族にどのような仕事をしているかを見てもらうために「従業員家族見学会」を行いました。

「森本・坊岡地区の変装盆踊りへの参加」



法被を作成し、地元の踊りを練習し、森本・坊岡地区の変装盆踊りに総勢12名にて参加しました。大変盛り上がりました。

「従業員全体懇親会」



地元の大宴会場にて全体の懇親会を開催しました。約50人の大人数でもあり大変盛り上がりました。